

PNEI研究会
共同研究企画セッション
企画趣旨

いかにインパクトの高い価値のある
データを世の中に送り出していくか？

・・・ただ、なかなか難しい。



欧米のPNEI系雑誌

- Psychoneuroimmunology Research Society (PNIRS)
“Brain, Behavior, and Immunity” (IF 5.9)



- International Society of Psychoneuroendocrinology (ISPNE)
“Psychoneuroendocrinology” (IF 5.7)



- その他

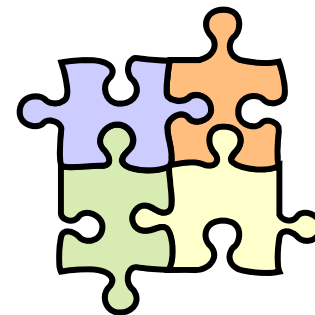
Psychosomatic Medicine (3.5), Biological Psychology (3.9), Hormones and Behavior (4.4), Psychophysiology系, etc.

どこに苦戦するか？(私見)

- Is this a new and original contribution?
- Is it justified to publish all the results?
- Is the title suitable?
- Is the abstract clearly written and understandable to the non-specialist?
- Are the methods sound and adequately described?
- Are the conclusions and interpretations sound and justified by data?
- Are points of interpretation clearly separated from the results?
- The language or style of the article needs:
- Are the references all necessary?
- Do the legends fully explain the figures?



受理される論文(私見)



□ オリジナリティのある研究

- 新奇のバイオマーカー
- 新奇の、あるいは他分野の研究手法
- 思わぬところでの有意差

□ 研究デザインがしっかりとしている研究

- Nが多い
- 因果関係を検討

■ 少ないNで無理やり有意差を出す研究をジャーナルは求めている。

■ 特にPNEIの分野では、1人、1研究室で、このような条件を満たした研究を行うのは難しい。

研究会を共同研究提案の場として

- データをとる時間がない。
- 指標を測定する環境がない。
- 研究を計画しているがNが集められない。



- データは余っているが書く人がいない。
- 測定技術があるのでそれを有効利用したい。
- データをとれるフィールドはある。

■ データの共同利用や共同研究の提案

- 疫学データや実験データの共同利用
- 多施設研究
- 役割分担を意識した共同研究

などなど